

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1072200213		
法人名	特定非営利活動法人ひまわり会		
事業所名	グループホーム一番星		
所在地	群馬県北群馬郡吉岡町陣場193-1		
自己評価作成日	平成22年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成23年1月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者が孤立しないよう、身体状態が重度化した利用者も居室ではなく、できる限り居間で過ごしてもらえよう配慮している。利用者・ご家族の最後までホームで暮らしたいとの要望に応えられるよう、協力医との連携を図りながら重度化や終末期に向けた取り組みを行っている。利用者が落ち着いた環境下で生活できるよう、職員の入退職が少なく同じ職員が援助にあたっている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

代表は、利用者はもちろん職員一人ひとりを大切にしたい運営を行っている。小さい組織だからこそ、職員同士の連絡が大切と考え、意見が出し易いよう職員だけの会議を開催したり、年2回の賞与支給時には一人ひとりの職員の意見を聞く機会を設けている。勤務体制の整備・休憩時間の確保・希望休の取得など希望を活かし、ストレスなく働けるように支援している。その結果、職員の出入りが少なく、利用者は職員との馴染みの関係のなか、安心して過ごせる環境が作られている。重度化に伴い意志の疎通が困難となるなかで、利用者の望むこと、その人らしい生活は何かを話し合い、家族等の事情や生活環境等も考慮しながら、利用者個々の思いの実現をめざし支援している。施設が利用者の終の棲家と考え、利用者の状況に応じて家族等と話し合い、これまででも看取りも行い職員体制も整えるなど、利用者も家族も安心して過ごせる事業所となっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念が理念にあっていないため、見直しを行う予定である。	施設は現在の古民家から新施設へ変わることを機会に、管理者研修での理念の考え方を活かして、簡潔で実践に結びつきやすいものを作成したいと考えており、職員で意見を出しあい4月までには完成させる予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催のお祭り等に参加はしているが、日常的になると難しい	地域の独居老人が気軽に来られるような地域に開かれた事業所を目指している。現在は、中学生の体験学習を受け入れたり、お祭りに参加したりしているが、地域の認知症への理解不足や利用者の重度化等が当面の課題となり、日常的な交流は行われていない。	地域の一員として日常的なふれあいが行われ、事業所が目指す地域に開かれた事業所となることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての講演を行ったことがある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や自治会長さんから意見をサービスに反映させている。	2ヶ月に1回開催し、報告及び参加メンバーから意見を頂いている。地域で独居の方が増えている状況を知ったり、自治会長からの依頼でホーム長が公民館で講演を行ったこともある。	事業所での支援内容や認知症に対する地域の理解を深めてもらうためにも、日々の地域交流などを会議で検討するなど、会議メンバーの力を活かした取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者のことなど、また空室ができた場合、入所希望者がいないか役場へ相談に行っている。	入居者の空き情報などを相談し、対応を求めるなど町窓口を訪ねている。今回は施設の移設計画に伴い、細かな意見交換が行われ実現に漕ぎ付けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的には行っていない。ただし、拘束が必要と判断した場合には、ご家族に同意を得るとともに同意書を一筆もらうようにしている。	身体拘束を行わないことを基本とし、現在も身体拘束を行っていない。身体拘束を行う場合には、職員体制上のやむを得ない時間帯のみとし、家族等と身体拘束の意味と、リスクについて話し合い、その理由と時間を記載して家族に同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者はもちろんのこと、職員同士でも常に注意を払い虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の利用者さんがいた際、役場と社会福祉協議会の方と話し合いながら、時に相談を行いながら対応にあたった		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には必ず書面にて説明し、疑問や不安に思うことがないか必ず確認するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に見えた際、ホームに対し何か要望等がないか声かけを行っている。	面会時や利用料の支払いの来所の機会に、日々の報告をしながら要望等を聞くとともに、遠方の方には、生活状況等を郵送して電話で要望等を聞いている。家族等の要望等は日勤簿に記録し、全職員が共有している。外部の苦情相談窓口については、重要事項説明書に明記し、説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で話し合ったことを報告してもらい、できる限り職員の意向に沿うよう配慮している。また時折、業務や職員間のことなどの心配ことがないか1対1で話を聞く機会を設けるようにしている。	職員の率直な意見が出せるように、月に1回職員だけの会議を開催して、意見を代表にあげている。職員から安眠のため夜間のおむつ交換について意見が出され、現在パット利用の取り組みがされている。また、年2回の賞与支給時に代表が職員個々と面談する機会をつくり、意見だけでなく個々の思いも聴き事業運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業はしないよう、また休憩時間は必ず1時間とるよう職員に周知徹底している。休みの希望はほぼ通している。有給休暇をとらせている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数や、力量、性格等を把握した上で、適した研修や業務上の指導にあたっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの交換研修に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は利用者も不安だと思うので、職員がコミュニケーションを図ることを大切にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際、ご家族から話を聞き、ご家族の気持ちを受け止めるよう配慮している。また、入所してから心配だと思うので、入所後の様子を連絡するようになっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族から話を聞いたあとで、職員間で話し合い、どういったサービスが必要としているか見極めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い、教えていただくこともあれば、共に泣き、共に笑い、同じ時間を共に過ごしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時に家族に、入浴や食事介助を手伝ってもらうことで、利用者と家族が、同じ時間を共有できるよう取り組んでいる。同じ時間を共有することで、利用者の現状をより理解してもらえる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	状態の重度化により困難になってきている。軽度の利用者の場合、ご家族が馴染みの美容院へ連れて行ったり、友人がホームに尋ねて来ることがある。	利用者の高齢化・重度化に伴いこれまでの馴染みの関係継続の支援は困難となりつつあり、利用者個々の表情や言動から気持ちを推察し、実家への帰宅などいくつかの選択肢を提案するなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度が軽度の方が重度の方の面倒をみたり、重度の方であってもできる限り居間で過ごしてもらい、孤立しないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了するときは、看取りのケースである。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	レクなどは強制参加ではなく、意志の疎通が図れる利用者に対しては、本人の意向に任せている。	職員の一方向的なサービス提供にならないように、人格を尊重し、孤独にならないよう心がけた支援をしている。利用者のことで気づいたことは、日々のお昼のカンファレンスのなかで、その人らしく穏やかに生活できるよう話し合われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人またはご家族から話を聞いたり、コミュニケーションを図るなかで、把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日常生活を観察し、利用者の現在の心身状態等をカンファレンスで話し合い、職員全員で把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の意見を出し合いながら計画を作成している。	週2回ケアマネージャーが来所し、職員からの意見聴取と利用者の状況を把握して、問題点等をあげている。問題点については、常勤職員を中心に月1回話し合いの機会を持ち、介護計画を作成し、家族の承認を得ている。モニタリングは3ヶ月に1回行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は毎日記入し、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身状態等に変化があれば、その状態に合わせたサービスを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	こどもが来ると喜ぶので、中学生の職場体験受け入れている。避難訓練には、実際消防の方に来ていただき消火器の使い方を学ぶなど、利用者の安全に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医が往診に来てくださる。重度化した際には、ご家族が直接、協力医より説明を受けている。	入居時に、ホームの協力医の説明をし、現在かかりつけ医はほぼ協力医となっている。受診の際の送迎は事業所に対応しているが、協力医は月2回の往診や緊急時対応が可能である。受診結果は、家族に口頭で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいた点は看護師に相談し、また、往診の際、医師に相談を行い、指示を受けるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、職員ができる限り面会に行くようにしている。病棟看護師に認知症である旨十分説明を行っている。入院期間の長期化は認知症の悪化に繋がるので、医師に早期退院をお願いし、ホームにて対応するようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護について家族と相談したり医療行為についても相談している	入居時や状況変化の際に、家族に事業所の方針を説明している。これまでに看取りを行っており、看取りの契約書を交わしている。看取りを経験した職員が他の職員に詳細に状況を説明し、職員で共有している。また、緊急時に備えて、心臓マッサージ等の対応を訓練している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥時や見取り時などの対応を訓練している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。また災害時に備え近隣住民に協力を呼びかけている。	年2回屋間想定での防災訓練を行い、うち1回は消防署の指導の下に行っている。勤務体制で役割分担を決め、避難できる時間を計測している。近隣には災害時に誘導してもらえるよう依頼しているが、災害訓練の案内はしていない。	災害に備えて屋間・夜間いつであっても避難できるように訓練を行い、地域の方にも今後とも協力を呼びかけ、具体的な対応や役割等の検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し、～さんずけで呼び、言葉遣いにも十分気をつけている。	利用者には、「さん」づけで呼ぶように徹底している。羞恥心に配慮して、おむつ交換の際などには扉を閉めることや臭いが気になる時には、本人に気づかれないように芳香剤などで対処するなど、心理的なケアも大切にしている。職員の対応で気づいた際には、その都度代表が注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化し、意思の疎通が困難な利用者を除いては、利用者本人の意思に任せ生活してもらっている。うまく気持ちを表現できない利用者には職員が声かけを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りテレビを観たり、読書をしたり、本人の意思に任せ生活してもらおうようにしている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師を活用しているが、利用者が馴染みの店に行きたい時は、ご家族の協力のもと行けるように働きかけている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳準備や、お皿拭きなどを行ってもらっている。	食事中はテレビをつけずに、個々の食べるペース等を考慮して座り、食事が楽しめるように支援している。利用者のこれまでの生活から推測して和食中心とし、会話のなかで献立づくりの参考にしたりしている。時には、利用者との会話からカップラーメンを食したり、季節のひなあられなどを提供したりしている。果物や水分補給などでの便秘対策も行われている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の心身状態(病歴)を考慮して、個々の状態に合わせて支援している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で口腔ケアが困難な利用者は、職員が義歯洗浄を行っている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄やトイレの訴えがある人はすぐ誘導し、訴えない方は、2時間おきにトイレ誘導を行っている。また、歩行が困難な人も車イスにてトイレまで誘導している。	自尊心を傷つけないように、また残存機能を活かすように、できるだけトイレで便器に座るように支援している。尿量等を考慮して、2時間から3時間おきにトイレ誘導している。また、排便チェックを行い、バナナ等を提供したり、腹部マッサージをしたりして、排便ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便チェックを行っている。また便秘傾向の場合、腹部マッサージを行ったり、乳製品などの食事を摂取してもらうなどの工夫を行っている。それでも排泄確認できない時は、医師に相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自立している利用者は本人の希望に沿って入浴を行っている。意思の疎通が困難な利用者はこちらで入浴日を決めている。	入浴は、1日おきにできるようにしている。入浴を嫌がる場合には別の職員が声かけするなどして入浴を勧めているが無理強いせず、入浴できない場合には清拭をしたり、次の日に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	トイレ誘導やオムツ交換を極力減らし、安眠していただけるよう配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的はもちろんのこと、副作用についても理解している。降圧剤を服用している方などは、内服後の血圧低下がおこる可能性があるため、ふらつきや転倒などに注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員管理のもとだが、たばこを吸っている利用者がある。利用者の状態に応じ、洗濯物たたみや食器拭きなどの役割を持っていたいっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族がドライブへ連れて行ったり、他の利用者と散歩へ出かけている。	身体状況を考慮して、その人にとってどうしたいのかを考えて個々の外出を支援している。近隣の神社まで散歩に出かけたり、桜や梅のお花見などへは、家族に案内を出してお弁当を持って出かけたたりしている。法人の他事業所と協力して、ラーメンを食べに外出に出かけたりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は利用者は持っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今はできていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間で過ごす時は、本人の好きな場所に座ったり、外から摘んできた季節の花を飾っている。	建物が古民家を改造しているため、木や土壁からぬくもりを感じ、個人の家を思わせる雰囲気である。居室へ続く廊下も縁側ふうで、居間は日当たりもよく神棚があり、テレビの前にはこたつテーブルなどが置かれ、家庭的雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはこたつが2つあり、テレビ観賞する利用者はテレビの前のこたつに座っている。一人になりたいときは、自室にいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていたタンスを使用していたり、ご自分で摘んできた花などを飾っている。	居室は、これまでに生活していた環境と同じようにたたみ部屋に布団という設定をしてきたが、最近は重度化により事業所でベットを用意している。仏壇やドレッサーなどが持ち込まれ、その人らしい居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者のできることと、できないことを見極め、ADLが低下しないよう気をつけ、日常生活を送ってもらっている。		